

## 企業会計基準委員会の最近の活動状況

前回基準諮問会議（第 15 回、2012 年 7 月 11 日開催）後の当委員会の活動状況は次のとおりである。

### ・ 国内基準の開発・整備に係る活動

#### 1. 会計基準の開発の状況

< 単体財務諸表に関する検討会議に関連するプロジェクト >

「企業結合ステップ 2」については、現在、委員会で審議中である（資料 3-2 参照）。

「無形資産」については、8 月 23 日の参考人質疑を踏まえ、その後の委員会で今後の進め方について審議を行い、次のような方針で進めていくこととしている。

現在の会計基準開発を取り巻く環境において市場関係者の理解を得て検討を進めるにあたっては、個別論点についての実務のニーズとコストをより詳細に把握することが適切であると考えられることから、「企業結合時における無形資産の識別」の論点と、「個別に取得した仕掛中の研究開発」の論点について、さらに掘り下げて検討を行うため、過去の検討状況を踏まえつつ、日本のみならず、IFRS や米国基準における現行実務の詳細な調査・分析を行う。

の調査・分析結果を踏まえて、実務上のニーズとコストを比較考量して当該論点に対応した会計基準の新設又は改正を行うことが財務報告の改善につながるか、全体的な整合性や対応することによる様々な影響も考慮して検討を行う。

の調査・分析の具体的な進め方としては、今年 11 月にかけて市場関係者（評価機関、財務諸表作成者、財務諸表利用者及び監査人）に対して現行実務に関するヒアリングを実施するとともに、IFRS や米国基準に基づく開示書類の比較分析も併せて実施する。そして、12 月以降に、ヒアリング結果等を取りまとめ、上記論点への対応案の検討を行う予定である。

< IASB で審議中のアジェンダに関するプロジェクト >

金融商品、収益認識、リース、連結、保険等について、IASB の審議内容の分析を行い、適宜、意見発信を行っている。

### < 実務対応委員会の再設置 >

本年7月の基準諮問会議におけるテーマ選定の議論を受け、8月の企業会計基準委員会で、実務対応専門委員会が再設置された。同専門委員会では、「信託を利用した従業員への自社の株式の付与スキーム」について、テーマアップに関する評価が2回行われた。

## ． IASB 等に対する意見発信

### 1. IASB 及び FASB との定期協議

FASBとの定期協議を2012年9月13日、14日に東京で開催している。FASBがIASBと共同で審議を行っている個別のプロジェクト（金融商品の分類と測定、減損、収益認識、リース）について議論するとともに、FASBが公表した開示フレームワークの研究報告や、当期純利益及び公正価値測定の範囲についても議論を行った。

IASBとの定期協議を2012年10月29日、30日にロンドンで開催している。IASBで審議を行っている個別のプロジェクト（金融商品の分類と測定、減損、収益認識、リース）について議論するとともに、IASBの概念フレームワークプロジェクト（当期純利益、公正価値測定の範囲の議論を含む）について、議論を行った。

### 2. IASB 及び FASB へのコメント提出

前回基準諮問会議後、IASB 及び FASB の公開草案等に対する下記のコメント・レターを提出した。

- IASB コメント募集「IASB 及び IFRS 解釈指針委員会デュー・プロセス・ハンドブック」に対するコメント（2012年9月5日提出）
- IASB 公開草案「IFRS の年次改善 2010-2012 年サイクル」に対するコメント（2012年9月5日提出）

### 3. IFRS 解釈指針委員会へのコメント提出

前回基準諮問会議後、IFRS 解釈指針委員会の公開草案等に対する下記のコメント・レターを提出した。

- 「IAS16号「有形固定資産」、IAS38号「無形資産」及びIAS17号「リース」-土地を使用する権利の購入に関する暫定決定」に関するコメント（2012年7月26日提出）
- IFRIC 解釈指針案 D1/2012/1「特定の市場で事業を行う企業に対して公的機関が課す賦課金」に対す

るコメント（2012年9月5日提出）

- IFRIC 解釈指針案「非支配持分に係る売建プット・オプション」に関するコメント（2012年9月28日提出）

#### 4. IASB のアジェンダ・コンサルテーションへのコメントに関するフォローアップ

IASBが2011年7月に公表した「アジェンダ協議2011」について、当委員会は、「アジェンダ・コンサルテーションに関する協議会（注）」における議論を踏まえ、幅広く市場関係者の意見を反映してコメントを2011年11月30日にIASBに提出した。

この内容に関して、前述のFASBとの定期協議（2012年9月13日、14日）及びIASBとの定期協議（2012年10月29日、30日）では当期純利益及び公正価値測定の範囲に関する意見交換を行った。

また、のれんの取扱いに関して、後述の欧州財務報告諮問グループ（EFRAG）及びイタリア会計基準設定主体（OIC）の質問票への協力を行った。これに加えて、我が国会計基準に基づくのれんの会計処理に関する質問票を公表し、実務における経験や市場関係者の見解を入手するとともに、これに関する意見交換会を2012年10月5日に開催した。ここで得られた市場関係者の意見を取りまとめ、IASB との定期協議及び後述の会計基準設定主体国際フォーラム（IFASS）にて意見発信を行った。

今後も、コメント・レターに記載した主要項目について、リサーチ・プロジェクトを推し進め、引き続き、IASBに対して我が国の主張を説明していく予定である。

（注）「アジェンダ・コンサルテーションに関する協議会」は、財務会計基準機構及び金融庁を事務局とし、企業会計基準委員会、日本経済団体連合会、日本公認会計士協会、日本証券アナリスト協会、東京証券取引所、経済産業省、法務省をメンバーとしている。

### ． 国際的な会計基準開発への貢献に関する活動

#### 1. AOSSG 会議関連

AOSSG（アジア・オセアニア会計基準設定主体グループ）の非公式会合が2012年10月24日にロンドンで開催され、当委員会からも同会議に出席した。

2012年11月27日から29日にかけて、カトマンズ（ネパール）においてAOSSG年次総会とワーキング・

グループ会合が開催される予定である。

## 2. 会計基準設定主体国際フォーラム (IFASS)

各国の基準設定主体が取り組んでいる研究プロジェクトを議論する会計基準設定主体国際フォーラム (International Forum of Accounting Standard Setters : 略称 IFASS) が 2012 年 10 月 22 日、23 日に、チューリッヒ (スイス) にて開催され、当委員会からも同会議に出席した。

当委員会では、日本におけるのれんの取扱いに関するリサーチについて報告を行った。

## 3. WSS 会議

IASB と各国の基準設定主体との意見交換のための WSS (世界会計基準設定主体) 会議が、2012 年 10 月 25 日、26 日にロンドンで開催され、当委員会からも同会議に出席した。

## 4. IASB の円卓会議等へのサポート

IASB が公開草案に関する市場関係者の声を直接聞くために開催する円卓会議やアウトリーチに係る運営上の支援を行っている。

前回基準諮問会議後、収益認識に係るワークショップが当委員会会議室で開催された。

## 5. 日中韓三カ国会議

本年度は 2012 年 10 月 10 日にソウル (韓国) で開催され、当委員会からも同会議に出席した。

## 6. IFRS 財団による「Accounting Standards Advisory Forum」の設置に関する意見募集

2011 年 11 月 1 日に IFRS 財団から、「Proposal to Establish an Accounting Standards Advisory Forum」が公表され、2012 年 12 月 17 日を期限として意見募集が行われている。

本意見募集は、IFRS の適用国・地域の拡大を受け、今後の IASB と各国基準設定主体 (NSS) 及び各地域団体との関係の正式化、効率化等を意図するもので、「Accounting Standards Advisory Forum」を設置することを提案している。

ASBJ では、2012 年 10 月の IASB との定期協議等を通じて、この IFRS 財団の構想に対応し、日本の

立場を強化するための活動を積極的に行っている。

## ． その他

前回基準諮問会議後に開催したセミナー等は次のとおりである。

### 1. ASBJ オープン・セミナー

「IFRS の最新動向」及び最近の当委員会の活動状況に関するオープン・セミナーを開催した。

開催地及び開催日は次のとおりである。

大阪（8月24日）、名古屋（8月27日）、福岡（8月29日）、東京（8月30日）、札幌（8月31日）

### 2. 市場関係者との意見交換

各地の証券取引所、経済界、監査人等とのコミュニケーションを幅広く行うことの一環として、ASBJ オープン・セミナーの開催に合わせて、大阪・札幌において当委員会の活動状況及びIASBの動向について経済界との意見交換を行った。

以 上